

日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)
www.gospeljapan.com/dd/

日本宣教のカギは 伝道団体の協力による

全国家庭文書伝道協会(EHC)総主事

長谷川 武国



「この御国の福音は全世界に
宣べ伝えられて、すべての国民
にあかしされ、それから、
終わりの日が来ます。」(マタイ
による福音書二十四章十四
節)

救い主のご降誕を覚え感謝いたします。

さて、主の大宣教命令、すなわち「いのち」を伝える宣教は「協力」なしには達成不可能です。日本の宣教の状況を知る時、伝道団体の宣教に対する責任は決して軽くはありません。主はこの時代に使命を受けている伝道団体が、総力をあげて協力し合うことを求められているのではないのでしょうか。

現在、日本の半分以上の市町村には教会がありません。教会のない市町村に住む人々は、福音を聞く機会がほとんどないのです。主は「すべての人が救われて、真理を知ること」(第一テモテ二・四)を望んでおられます。

EHCでは福音文書をもって、全国の教会がない地域に

福音を伝えてきました。ここ数年、キャンパス・クルセード(CCC)と協力して「ラブ・ジャパン」宣教を行っています。これも、協力することの一例だと思います。この「ラブ・ジャパン」とは、東アジアのクリスチャン大学生が夏休みを利用して来日、教会がない市町村で福音を伝えます。私自身も毎年、彼ら海外のクリスチャンと寝食を共にして伝道に出かけます。その中で姉妹の主に仕える姿から、実に多くのことを学ばされています。

炎天下、汗びっしょりになって彼らは家々を訪問します。暗記したばかりのたどたどしい日本語で「こんにちは。これはプレゼントです。ぜひ読んでください。」住民の反応はさまざまです。ワーカーの情熱と汗びっしょりの笑顔を見てトラクトを受け取った方、お礼にと畑で取れたトマトを勧める方、懐疑心から拒んだ方など、反応はさまざまです。でも、彼らは笑顔で「ありがとうございます」と言ってます。また次の家へ。日本の片田舎で、言葉も文化も違う人々の家を訪ねて福音を伝える彼らの信仰には、いつも学ばされます。

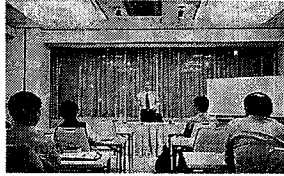
このケースは「協力」によって宣教は大きく前進する、との証明ではないでしょうか。まさに「協力世界宣教」なのです。日本の福音化のために、伝道団体が協力して「何か」が出来ないものでしょうか。日本のリバイバルは、伝道団体の「協力」によるものと信じ祈る一人であるからです。

一泊研修会報告

十月十五日(月)から十六日(火)にかけ、伝団協主催・恒例の一泊研修会が開催されました。講師に元カネボウ薬品会長の三谷康人先生をお迎えし、「危機をどう乗り越えるか」というテーマで三回にわたって講演して頂き、大変有意義な時をもつことができました。

「ピンチはチャンス」

一泊研修会に参加して
百万人の福音 営業課 安福義輝



まず、一泊研修会に参加してきましたことを感謝いたしました。私は「百万人の福音」で広告営業をしており、日頃から牧師・クリスチャン経営者・信徒の方と会うとき、いつも仕事での打合せが大半でした。そのためこの伝団協の一泊研修会に参加する上でも伝道のための研修というより、いかに広告営業に結びつけるか、講演を聞くことよりいかに営業をするかと思索しておりました。

しかし三谷氏の講演が始まると目先の営業のことは忘れ、その内容に引き込まれていきました。テーマは「危機をどう乗り越えるか」というものでした。三谷氏が会社で勤務されていた頃、三度の左遷に遭い、その度に祈りと忍耐により乗り越えられ、負を正に、いかに業績を伸ばしてこられたかをお伺いし、同じ信仰を持つ者として本当に励まされました。状況が変化して危機が訪れるとき、それをピンチとするかチャンスと捉えるか、そこが大きなポイントだと語られました。

またVIPクラブの実例を出され、この働き

が祝されているのは「愛・喜び・平安」がそこにあり、現在(ビジネスマンが)「求めているものを提供している」から多くの人が集まり、また同様に各教会や伝道団体も本当に入々が求めているものを提供すれば、人は知らずに集められていく、という常に前向きなご意見をお伺いすることができました。

宿泊は各伝道団体の方々と同室させて頂きました。そこでもそれぞれのお働きでの貴重なお話を伺いすることができ、講演会の「分科会」に参加させて頂いたようでした。(上司に叱られそうですが)仕事の広告のことも忘れ、三谷氏の講演や活躍されておられる先生方の貴重なお話を伺いすることができ、とても有益な研修に参加することができましたことを感謝します。

「新たなパワーが」研修会に参加して

エースパッケージ 営業課長 杉山明宏



十月十五日の講演会に参加させて頂きまして、どうもありがとうございました。実は、たまたま御茶ノ水のCLC書店に置いてあったパンフレットを見て今回の研修会に参加させて頂きました。「逆転人生」を読み、クリスチャンとして、ビジネススマンとして以前から本当にすごいなと思っておりました三谷先生のお話を直接お伺いすることができ、というところで喜んでおりました。

そして先生のお話から、私たちが生きていく上で大事なものは何か、本当の中心となるものは何なのかを改めて教えて頂きました。ビジネススマンは仕事上悩みが多いです。けれどクリスチャンがすばらしいのはビジネスにおいて最善をつくした後はすべて主に委ねられる、ということです。委ねた結果、そこに平安、愛、そして新たなパワーが生まれます。

残念ながら一日だけの参加でしたが大変恵まれ、また勇気づけられ帰路に着くことができました。いろいろとありがとうございました。

第二回加盟団体訪問ツアー報告

九月二十七日午後、太平洋放送協会と国際ナビゲーターを、七名が訪問しました。

●太平洋放送協会(案内者・中川兄)
全国二十四局からの「世の光」ラジオ放送と十二局からの「ライフ・ライン」テレビ放映がされ、「世の光」は毎日約百六十万の方々が聞いておられるのとです。



番組を制作されているスタジオを見学させて頂き、現場の苦労話をお伺いしたり、榎原寛師の収録現場も見学し、最後に「ライフ・ライン」のスタジオで記念撮影をしました。

●国際ナビゲーター(案内者・洪沢兄)
全国におられるスタッフは、大学へ出て行って人間関係を作り伝道・弟子作りをする働きと、社会人に対し職場、喫茶店、ホテルを活用して伝道・弟子作りをする働きを地道に続けておられます。また教材を翻訳する働きも欠かせないとのこと。



「スタッフのサポートは神様から来ると確信している」との洪沢兄の言葉が心に残りまし

最後に両団体の働きのために、参加者を代表して洪沢兄に祈っていただき、解散しました。
(ライフミニストリーズ 竹原・記)

総動員伝道



代表 姫井雅夫

総動員伝道も活動を始め、三十年が過ぎていきました。南米のコスタリカで始められた「深みの伝道」が総動員伝道の源流です。その教材から聖書的な原則を取り出し、日本の教会に合うように編纂しなおして現在の教材「よい証人」が出来ました。

最初にこれを用いて総動員伝道が実施されたのは四国でした。以来三十年、日本全国の約九十五%の地域で総動員伝道が実施されてきました。羽鳥明師が最初の委員長、次いで小助川次雄師、新しい世紀に入るのを機会に私が三代目の委員長に就任いたしました。この間に、安藤伸市師、森山諭師、宇田川武氏が天に召されました。また、マクビティ師、ストローム師、リーズナー師、シーリー師、ジェイコブセン師など多くの宣教師が奉仕してくださり、帰国されました。

新しい世紀の伝道に向けて、今まで長年にわたって用いられてきた教材を改訂しようという事になり、目下その作業にかかっています。今年度中には完成させたいと願っています。今までは十二週間にわたっての学びと訓練でしたが、忙しい今の時代に合せてもっと使いやすいようにまとめるように思っています。また古い表現や例話を新しくしたり、新しい資料を付け加えようとしています。そして良いもの、長く使っていただけのもので作りたいと鋭意作業にあたっています。

現在、本州で総動員伝道をしていないのは三重県です。今年準備の年とし、来年から実施に移す事が出来ればと祈って、県内の諸教会と相談の時を重ねています。
また、北海道では空知総動員伝道、釧根（釧路と根室）総動員伝道が行われましたが、まだ

まだ広く実施していない地区が残っています。今までは広範囲にわたって一度に実施する形態をとっていましたが、これからは小さな範囲でじっくりと諸教会の実情に合わせながら進めていきたいと方針を変更しました。点のように散在している日本の教会ですが、それらを一つ一つ繋げて線にし、働きの場を面にしてみました。これからも総動員伝道に託されている使命（すべてのクリスチャンを良い証人に。すべての人に福音を。すべての教会の形成を。）を主の再臨前に、しておかねばならない事として忠実に果たさせて頂きたいと願っています。応援して下さる働き人が与えられるよう、必要が満たされるよう、よろしくお祈りください。

ゴスペルワールド

「クリスチャンアーティスト・プロモーション」



代表 若屋忠重

設立 一九八四年四月 東京
シャロームより独立して今日に至る

業務内容

・ゴスペルミュージック・プロモーション

・音楽工事 設計、施工

・CD製作 オリジナル・聖歌・讃美歌他・自費出版協力

・出張録音・即売、カセット・ビデオ・コピーサービス

・音楽伝道集会・ランチョン・コンサートなどをご計画下されば、積極的にプロモートいたします。

・久米小百合

かつて芸能界で活躍していた彼女。突然のヒットで毎日忙しく、自分を見つめるために教会の門をくぐる。その後、音楽家の久米大作氏と結婚に導かれ、久米に与えられた豊かな感性で、現在は神の愛、創造、自由と平和などをモチーフに神へのラブソングを歌い、人々を教会につなげるブリッジとして主に仕えている。

・森祐理

NHK歌のおねえさん、ミュージカル出演と活躍していた森祐理。すでに神を信じていたが、さまざまな試練の中で自分の誇りとしてきたものが、すべて神から与えられたものと知ったとき、たとえ歌がなくても喜んで神に従おうと決心。阪神大震災では犠牲になった弟さんのその悲しみを乗り越えて各地のチャリティコンサートで奉仕。痛みと苦しみを通して、森の歌声は人を励まし、どんな試練にあっても主を見上げようとする生き方に感謝する。

・ササキ・ヨシユア

空手三段の黒帯を持つ佐々木さんは高校時代二つの暴走族と四つの高校を束ねる番長。ひよんなことからダニエルという宣教師に出会い洗礼を受ける。これまで教会を離れ、暴走・喧嘩に明けくれた「こんな自分でも救われた」。神の愛を歌うゴスペルシンガーに。

三上勝久

ゴスペルシンガー兼社長！かつて勤めていた会社が倒産したが、その困難の中で奥さんと共に食品会社「味工房」を興した。会社倒産という挫折を経験し、その中でも変わらない神の愛、最も大切なものは何かを歌で問いかける。仕事のかたわら、招いてくださるところがあれば、全国どこへでも出かけて行き奉仕する。彼の歌は主への願いや祈りとなって魂をノックする。

・ラニー・ラッカー

日本でのブラックゴスペル第一人者。一九二二年、ラッカー氏が「Vocal Fitness Center」のヴォーカル教室を開き、調布南キリスト教会のミュージック・ディレクターを経て、現在日本各地の教会の聖歌隊を指導し、また多くのコーラスグループを教えている。アメリカの一番大きなゴスペルセミナールの「ゴスペル・ミュージック・ワールド・オブ・アメリカ」(G.M.W.A.)の日本支部長として奉仕。また日本各地でゴスペル・ミュージック・ワークショップを開き、指導を行なっている。

「伝団協」加盟団体「ニュース・フラッシュ」

●このころの友伝道全国連合会

「このころの友伝道第四十九回全国大会」ご案内
とき・二〇〇二年八月二十七日（火）から二十九日（木）於・舞子ビラ神戸
テーマ「あなたは良い知らせを伝える者」ローマ十章十五節。参加歓迎。

●内外盲人ミッション

来年春を目標に、「光のミッション」への発展的移行を準備しています。世界と日本の盲人のための総合ミッションを目指します。

●小さいのちを守る会

ここ十年來、いのちの軽視と性の乱れが加速度的に進み、神の御名が汚される傾向が教会を襲っています。福音宣教と合わせて社会への警告の急務を感じています。お祈りください。

●総動員伝道

「よいあかしびと」の教材（十二課）を改訂版として七課にまとめました。これを用いて十二月三・四日、総動員伝道事務局で講習会をいたしました。続けて用いられるためお祈りください。

●日本伝道者協力会

フェローシップという機関紙を発行しています。必要な方はお申し出ください。Eメールで発信します。またはファックスでお届けします。伝道団体連絡協議会のホームページでも見られるように手続きをとっています。

●キャンパスクルセード

「JESUSと子供たち」（六十分ビデオ）クリスマス版を一本五百円（なるべく四十五本入りの箱単位でお願いします）で提供してあります。まだ間に合います。

●財団法人日本聖書協会

世界及び日本における聖書普及活動の現状を紹介する「聖書普及講演会」が二〇〇二年二月二十八日（木）銀座教文館ビルにて開催されます。
詳細は電話〇三・三五六七・一九八八

●ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョンではアフガニスタンでの支援活動のために、他NGOと協力し、難民支援、及びペシヤワールでの支援活動を行なっています。今後、新たに到着した難民に対する医療支援も開始する予定です。

●全国家庭文書伝道協会（EHCC）

サッカーW杯に向けてトラクト「ゴール二〇〇二」を製作しました。Jリーグ・松波正信兄の証しなどが入っています。伝道に用いられるようにお祈りください。

●福音主義医療関係者協議会（EMF）

今年度の主要な活動を終えて、EMFジャーナルの発行が開始されています。新幹事十五名（任期三年）で来年度の活動計画を立て始めています。お祈りください。

（伝道団体連絡協議会とは）

キリスト教界には大きく分けて二つの分野があります。

キリストの十字架の血によって罪赦された人々の集まりとしての「教会」とキリストチャンになった者たちがそれぞれの使命をもって専門的な分野で伝道活動、福祉活動などを行っている「伝道団体」があります。この二つは共に協力し合っていて、神の福音を伝え、神の国の拡大に務めています。教会と伝道団体はともに助け合う必要があります。伝道団体がバラバラに活動していたのでは、教会にとって協力しにくいし、伝道団体相互にとっても力を欠く事になります。そこで連絡のために一つになろうと「伝道団体連絡協議会」が生まれました。現在、約五十の団体が傘下にあります。伝道の手段階（電波、文書）による団体、対象年代層別（子ども、中学生、高校生、大学生、社会人、婦人など）による団体など。

（献金の御願い）

各団体は教会やクリスチャン個人、クリスチャン企業による献金によって成り立っています。二〇〇一年はここ数年にわたる経済的な困難に見舞われ、どの団体も苦渋を味あわされています。教会と共に主の働きをしています。各伝道団体のために是非、お祈りとご支援くださいますよう御願い申し上げます。

（郵便振替〇〇一五〇一〇一五四四四四）

（訂正とお詫び）

前回発行NO.43号1P巻頭の言葉（岸田馨師）の中で「エースト」（ギリシャ語）は「エートス」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

発行日 二〇〇一年十二月二十日

発行者 村上宣道

編集者 萩生田充